

浜松市総合計画 基本構想

浜松市未来ビジョン

(案)

目 次

都市の将来像 1

市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』

1 ダースの未来 3

- 01 みたす【満たす】
「あったらいい」を実現する浜松の産業。
- 02 たかめる【高める】
ボーダレスに広がる農林水産業。
- 03 ささえあう【支え合う】
笑顔のワケは、支え合い。
- 04 おいる【老いる】
若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。
- 05 いかす【活かす】
子どもは将来の宝。みんなが愛情を注ぐ。
- 06 かえる【変える】
居住するところ≠生産するところ。
- 07 つなぐ【繋ぐ】
人が繋ぐ、まったく違う一つの都市。
- 08 はたらく【働く】
自由にチャレンジ、国民の義務。
- 09 めぐらす【巡らす】
エコ (ecological) = エコ (economical)。
- 10 けちる【ケチる】
日当たり良好、未来に無駄なし。
- 11 みとめあう【認め合う】
多文化共生が世界で活躍する人材をつくる。
- 12 つかう【使う】
私のオフィスは喫茶店、隣で息子が算数の授業。

市民協働で築く 『未来へかがやく創造都市・浜松』

浜松市は、後世 30 年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を、市民の皆様と共有する「都市の将来像」に掲げます。

先人の皆様は、英知の結集とたゆみない努力により、世界に誇る技術と文化を有する都市として、今日の繁栄を築いてきました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない浜松が、ものづくりのまちとして自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行した輝かしい歴史を残しています。本市の発展を支えてきた高い創造性や物事に果敢に挑戦する精神を、未来を担う子どもたちに引き継ぎ、希望に満ちた未来を創造します。

以下に、30 年後（1 世代先）理想の姿を示し、浜松市未来ビジョンとします。

※※※市民協働の輪が広がっている※※※

浜松の人財は無尽蔵です。市民の皆様は、福祉や子どもの健全育成、自然環境の保全など様々な分野において、自発的に活躍しています。

市民協働の担い手は、児童・生徒、サラリーマン、外国人や公務員など、すべての浜松市民です。また、民間企業では、地域社会における自らの責任を理解し、奉仕活動に努め、NPO 法人をはじめとした市民活動団体も、自立して活躍しています。

これら多様な主体は、お互いに顔を合わせ、活発な意見交換を行い、信頼関係を強めながら、市民協働によって‘浜松’をより良くしています。こうした市民の意思と行動力は、安心と快適、そして、豊かさが感じられる地域社会を築いています。

また、子どもたちに対して、家庭・学校・地域において、いっぱい愛情を注ぎ、豊かな心と社会における規範意識をはぐくんでいます。礼儀を重んじ、自ら人間力を高めた次世代の人財が育っています。

※※※課題解決先進都市として、いつまでもかがやいている※※※

我が国は、世界で最も早いスピードで人口が減少しています。とりわけ、働く世代とされている生産年齢人口（15～64 歳）が大幅に減少し、65 歳以上の人口が大半を占める人口構造へと変化しました。その中で、本市の高齢化率は 38%。超高齢社会を迎えました。

人口減少・超高齢社会の下ではありますが、成長産業への人財や資金の集中により、一人当たりの生産性を高めることに成功し、また、若い世代に加えて、女性や 65 歳以

上の方の雇用を大幅に拡大させたことによって、地域経済は順調に推移しています。さらには、公共インフラを最適化し、居住エリアもコンパクト化することで、将来の負担を抑えることに成功しました。

浜松は、都市部から中山間地域まで、全国に類を見ない多様性を有しています。それぞれの地域では、特性を活かして、先進的な農業を営み、高度な技術力でモノをつくり、ニーズに応じたサービスで消費活動を活発化させています。こうした多様性の中で‘ひと’‘モノ’‘こと’を循環するサイクルが築かれ、想定外の事態の中でも、揺るぐことのない「打たれ強さ」は、浜松の強みとなっています。

人口減少・超高齢社会における課題を先取りし、いち早く行動を起こしたことによって、自立した持続可能な都市を築きました。先進的に自立した都市の姿は、我が国のモデルとなり、全世界からも注目されています。

※※※浜松はクリエイティブシティ（創造都市）である※※※

都市の玄関口となる‘まちなか’では、洗練された音楽文化が感じられ、通り行く人々に心地よさを提供しています。また、楽器博物館では、貴重な所蔵品があることから、海外からの観光客の名所として賑わいを見せています。

文化面・産業面において新たな人財の芽が育っています。音楽を中心とした創造性豊かな人財の育成に力を入れ、浜松から巣立った音楽家・文化人が世界を舞台に活躍しています。また、浜松は、外国人が多く定住しており、世界の情報や資金が集まりやすいため、こうした強みを活かして、新しいことに挑戦するベンチャー企業も次々と生まれています。

浜松では、音楽が響き、文化と技が伝わっています。そして、新しい価値を生み出し、暮らしの豊かさを高めています。

以下には、希望に満ちた未来に向けて、細分化した12の理想「1ダースのみらい」を定めました。未来のあるべき姿を市民の皆様と共有し、都市の将来像の実現を目指します。

1 ダースの未来

———未来の理想の姿 01———

みたす【満たす】

「あったらいい」を実現する浜松の産業。

浜松の広大な市域には、人を惹きつける多くの魅力が備わっています。他の都市にはない産品や伝統芸能はもちろんのこと、産業技術や市民生活の一部でさえ、浜松のウリになっています。

ものづくりの分野では、「オンリーワン技術」と呼ばれる中小企業の技が、脈々と受け継がれながら、常に革新され、新たな産業の糧となっています。人々の「あったらいい」を次々に実現し、生産工程を汎用化させることで、浜松発の製品が世界中で量産され、世界経済を支えています。

アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれる。新産業を創出する連鎖の仕組みが根付き、いつしか、浜松で認められることが、世界で認められる近道となりました。このため、世界からたくさんの技術者が集まってきます。

世界からの来訪者が多い浜松には、ビジネスチャンスが生まれ、特産品、文化、風土を世界に発信する工夫がなされています。とりわけ、浜松産の安全でおいしい農林水産物を集めた専門エリアができました。ここでしか手に入らない厳選品を取り揃えた「ショップ」が軒を連ね、中には、食通をうならせる飲食店も立ち並びます。地元のもの食べたいという、仕事で訪れる人の「あったらいい」を形にすることで、満足度が高まり、再び家族や友人を連れて浜松を訪れています。一方、浜松市民も、地域の魅力を再発見できる場所として、「ショップ」のリピーターになっています。この専門エリアへの出店が商売人のステータスとなり、常に機会を窺っています。「ショップ」同士も競い合い、時には協力して、あたたかいおもてなしで来店客を満足させています。

大自然の恵みを活かした田舎の生活が気軽に体験できるエリアでは、農作物の収穫体験や蕎麦打ち体験などが好評で、首都圏などの体験者には、「もう一人のおばあちゃんち」として親しまれています。顔の見えるあたたかい結びつきが、多くのリピーターを生み、中には移住してくる人も見られます。

このほか、海や湖のマリンスポーツ、音楽をはじめとした文化、市内の各地で行われる伝統行事、定住外国人が営む「ショップ」などがウリとなって、浜松市民は、休暇を市内で過ごし、市外の人には「あったらいい」を叶える浜松の産業が定着しています。

たかめる【高める】 ボーダレスに広がる農林水産業。

浜松の農林水産業は、肥沃な台地、浜名湖や遠州灘の水産資源、山林など、多様な自然環境を最大限に活用し、特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。また、経営感覚を身につけた従事者が、製造業や観光、医療、福祉などとの連携を進め、農林水産業が、浜松を代表する「ビジネス」として確立しています。

農業分野では、大規模農家から小規模農家まで、バランス良く発展しています。効率性を重視した生産工程で安価な外国産品と対等に勝負することもできれば、手間を惜しまず、世界中の高級レストランから注文が入る高品質な農産物を生産することもあります。成功の背景には、まちなかに住まう方でも、サラリーマンであっても、「農業」を学ぶ環境が整えられたことが挙げられます。これまでの「食べる＝消費する」だけの立場から、多くの市民が「つくる＝生産する」視点を有するとともに、技術士やマーケティングを行うデータサイエンティストなどの専門家が農業に関心を持ち、経営に関わったり、実際に畑を耕したりすることで、他の産業との結びつきが強くなり、専門性が高まりました。

林業分野では、体験型の「林業観光」が人気です。観光業の資本が入ることにより、集客力と知名度が増し、はじめのころは、まちなかに住まう方に人気でしたが、次第に全国から人を集める大きなビジネスに成長しました。他の一次産業よりも体験の「入り口」が見つけにくい産業でしたが、観光業に携わる方が林業の視点を、林業に携わる方が観光業の視点を持つことにより、潜在的な需要を掘り起こしました。この結果、林業の魅力に取り付かれ、中山間地域に移住する人も増えています。

水産業分野においても、ウナギやノコギリガザミなどの特色ある水産物を安価なコストで養殖する方法が定着しています。天然モノは高級料亭から注文が殺到していますが、養殖モノは家庭の食卓にも上がり、浜松ブランドとして区別されながら、全国で食されています。漁法については、新たな技術革新が生まれ、あわせて、船具や漁具を製造する技術が向上して、水産業が発展しています。

農業を楽しみ、とれた産品を家庭の食卓の材料としたり、隣近所にお裾分けしたりする小さなサイクル。世界を相手取り、大規模にビジネスを展開する大きなサイクル。浜松にはどちらもあります。関連産業とボーダレスに連携することで、海外を股にかけてビジネスチャンスを広げています。

ささえあう【支え合う】 笑顔のワケは、支え合い。

病院同士が連携し、受け入れ患者の症状によって、救急医療の役割を分担する「浜松方式」。診療所で初期診療を行い、専門的な検査・手術や入院を要するものは総合病院で対応する「オープンシステム」。浜松の医療は、我が国の見本です。質の高い医療の提供は、不測の事態であっても安心感があります。

病気にかからないための予防教育も充実しています。食育が徹底され、子どもたちは、和食が大好きです。たばこやお酒などの依存症にならないための授業も繰り返し行われ、大人になってからも、生活習慣病予防対策など健康であり続ける意識が浸透しています。

高齢化率が約4割になりました。デイサービスでは、元気な高齢者がボランティアとして活躍し、利用者の話し相手や清掃活動をサポートしています。介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流によって、いつも笑顔が絶えません。在宅介護を必要とする方々には、地域包括支援センターを中心として、地域が見守っています。本人は住みなれた場所での暮らしを続けることができ、行政やボランティアなどの支援体制によって、介護する家族の負担も軽減されています。

地域社会での支え合いは、防災や防犯にも活かされています。例えば、コンビニエンスストアなどの店舗が、防災・防犯の相談所となっており、だれもが気軽に利用することができます。これらの店舗を地域コミュニティの核として活用しながら、学校や診療所、薬局、企業などと連携し、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

防災や防犯に関する教育は、子どもたちから、家庭・学校・地域コミュニティにおいて行われています。また、地域主体で行う防災訓練には、多くの住民が参加し、レベルの高い模擬訓練を実施しています。すべての市民の皆様が「自分の身は自分で守る」とした意識を有しており、大規模災害に対する心構えができています。

安全と安心を感じる中で、笑顔が生まれている。その理由は、地域における支え合いなのです。

おいる【老いる】

若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。

市民の5人に2人が65歳以上。こうした方たちは、もはや「高齢者」とは呼ばれていません。もともと長かった浜松の健康寿命は、生活習慣病の予防や医療の発達により更に成果が上がり、65歳以上の方々が活躍できる時間は20年以上もあります。定年制度を撤廃する企業も増え、働き続けながら、経済的に自立しています。その中で、若い世代に学術や技術、社会で生きる術を伝承し、将来を後世に託しています。一方で、住まいを自然豊かな中山間地域に移し、晴耕雨読の毎日を楽しむ人もいて、健康で自分らしく生きる「カッコいい老い方」が流行です。

人口の約4割を占めますから、世の中の中心的存在になっています。買い物や観光旅行など、消費を活性化させる重要な対象であり、民間企業においても、65歳以上をターゲットとした商品開発に本腰を入れています。

また、一人暮らし世帯の数は、上昇傾向にあります。家族と近居したり、知り合いと同居したりする方が増えています。地域社会との関わりを持ちながら生活しているため、大規模な災害が起こったとしても、孤立してしまうようなことはありません。いくつになっても、ボランティアなどの社会貢献をはじめ、スポーツや絵画、資格の取得などに挑戦し、適度な緊張感を持って輝き続けています。だれもが好きなことに夢中です。

地域では、包括支援センターを中心に、元気で病気にならない予防に重点を置いた生活指導を充実させています。たとえ病気になったとしても、地域社会に見守られている安心感があります。自らの症状を受け入れ、望みを持ちながら生活の質を高める努力をしています。また、歩行や普段の行動を補助するロボットスーツも市販されており、自分らしい生活を送ることができます。

ユニバーサルデザインへの理解も増してきました。建物や構造物だけではなく、当たり前前に支え合うことができる心のユニバーサルデザインが浸透しています。このため、地域で暮らすすべての老若男女が、お互いの立場を理解し、助け合いながら暮らしています。

いかす【活かす】

子どもは将来の宝。みんなが愛情を注ぐ。

浜松では、男女の違いなく、子育ての楽しみや負担をシェアしています。

子育てに関する悩みがあっても、隣に住むおじいちゃんや裏のおばあちゃんに気軽に相談でき、子育てのノウハウを持つボランティアもサポートしてくれます。子育てに関する知識が世代間で伝承され、一人で悩み、抱え込むようなことはありません。また、地域主体の育児サークルが活発に活動しているほか、地元のお祭りやスポーツ、昔ながらの遊びを通して、地域ごとに特色のある子育て方法も生まれています。

勤め先では、育児休暇の取得に抵抗がありません。男女の区別なく長期休暇を取得しており、就業復帰支援も充実しています。すべての企業で、子育てを重視した働き方に見直され、ワーク・ライフ・バランスが推進されています。

浜松の子どもは、みんなで育てる。子どもは将来の宝といった意識が、市民一人ひとりに浸透し、親にとっては絶大な安心感があります。このため、子どくさんの家庭が増加するとともに、シングルマザーやシングルファーザーに対する偏見は一切なく、地域で見守られているため、経済的にも安定しています。不安なく子育てできる浜松に、全国の子育て家庭が集まるとともに、浜松の合計特殊出生率は高まっています。

学校では、障がいのある子どもや、外国人の子ども、家庭環境が恵まれない子ども、すべて平等に学ぶことができます。子ども同士もお互いの特徴を認め合って、楽しく学校生活を送っています。また、一人ひとりの個性に合わせて学びを選択することもできます。理数や語学、芸術、スポーツなどの素質を早くから見つけ、子どもたちの才能を伸ばす教育も盛んに行われています。

また、学校教育では、学力向上だけでなく、生きる力をはぐくむことに力を入れています。コミュニケーション能力や表現力などの人間力の向上が図られ、自立した人間形成に役立っています。さらに、家庭、地域、学校が連携して一人ひとりの子どもに関わっているため、地域社会の一員としてはぐくまれています。このため、子どもは、人間力や社会性など、社会に出る上での必要なスキルを身につけ、「自分は大切な存在である」とした自己肯定を感じています。

浜松の子どもは、自分のため、地域のため、国のため、そして世界のため、「世界に誇る浜松育ち」として個性を伸ばし、大人になって世界を舞台に活躍しています。

かえる【変える】

居住するところ ≠ 生産するところ。

浜松では、土地や家屋が一生の財産であるとした考え方が見直されています。ライフステージに応じて、都市部や中山間地域まで最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます。かつての空き家が大いに活用され、健康的にも省エネルギー的にも良い住宅として、リフォームされています。高気密・高断熱化によるヒートショック防止や太陽光パネルを設置したエコ住宅が一般的で、快適で安全に暮らす質の向上へと住まい方の転換がなされています。

また、拡大していた居住地は集約傾向にあり、人口は減少していますが、人口密度の高い地域は一層高まり、居住地域と農業や工業を営む生産する地域とのメリハリが明確についています。これにより、土地や家屋の流動化が進み、空き家や空き地は減少し、住宅団地などの一団の開発はほとんどありません。一方、生産する地域では農業の大規模化や企業誘致が進むなど、生産性が高まっています。

移動手段は、地域や企業が所有する乗り物をシェアしているため、渋滞は緩和されています。個人で自家用車を持ち、運転を楽しむ方もいますが、安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんどです。市街地における日常の移動手段は、エコな一人乗りの乗り物が中心です。道路は、歩道と車道が明確に区分され、歩くところにできたオープンスペースは、コミュニケーションの場となっています。また、居住地の集約化によって、不要となった道路は、廃道され、他の用途に活用されています。

公共施設についても考え方が見直されました。点在していた公共施設の機能を1つの建物に集約したり、図書館だった施設に民間事業者が運営する映画館やカフェを併設したり、機能の合理化がなされています。また、美術館が、休日には結婚式場、夜にはディナー会場になるなど、様々な用途として柔軟に活用されています。運営母体には、民間事業者やNPO法人などが新たに参入しており、使い勝手の良い施設として、質の高いサービスを提供しています。

つなぐ【繋ぐ】

人が繋ぐ、まったく違う一つの都市。

「まちなか」は、創造都市・浜松を代表する「顔」として栄えています。アクトシティ浜松周辺の歩道や壁面には、音響やビジュアルアートのデザインがあり、創造性豊かな文化を感じることができます。また、国際的な文化・スポーツのイベントが盛んに開催されていて、海外から来訪者が訪れています。

世の中の消費者市場は、品ぞろえを極限まで拡大した大型専門店と、手軽さや便利さを追求したコンビニエンスストアなどに二極化し、これら両方を兼ね備えたネット販売も幅を利かせています。こうした中で、「まちなか」は、店舗同士が連携、また、差別化することで、歩いてショッピングを楽しむエリアとして確立しており、「華やかさ」や「ワクワク感」を得ることができます。また、居住空間としても洗練されていて、高層マンションに、多くの市民が移り住み、買い物など日々の生活は歩いて済ませています。

これにより、人口密度が高まり、公共、商業施設などの都市機能が更に集積し、店舗2階などの空きスペースでは、ベンチャー企業の仕事場やアーティスト・デザイナーのアトリエとしても活用されています。文化、商業、居住、業務、歴史などがコラボレーションし、多くの人で賑わいを見せる「まちなか」になっています。

一方で、自然豊かな「中山間地域」は、命の源である水を生み出す、欠かすことのできない地域であり、その価値が見直されています。高校や大学を中心に、地域を越えて伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えてきました。また、主要産業の一つである林業は、一元管理により効率よく材木を出荷する体制が整い、「Tenryu-zai」は、優良材として世界に通用するブランド材となっています。未利用木材についてもバイオマスエネルギーの定着により、燃料として余すところなく利用されています。さらには、新たな木材加工産業も発展していて、環境保全を兼ねながら、お金を生み出すサイクルは、全国のモデルとなっています。

昔ながらの田舎の人付き合いが根付く「中山間地域」では、心穏やかに時を過ごす福祉施設が立地し、入所者に好評です。地域住民の雇用を生むばかりか、地域外の若者の就職先ともなり、人口流入に一役買っています。

田舎だからこそ、人を呼び、雇用が生まれ、更に人をも流入させています。まちなかにも程良く近く、高規格道路網の進展により大都市圏へのアクセスも良い「ほどよい田舎」として、シニア層から子育て世代、就職活動中の若者まで、幅広い年代に人気の生活スポットとなっています。

はたらく【働く】

自由にチャレンジ、国民の義務。

働きたい人が自由にチャレンジして、いつでも働くことができる。それは、国籍、性別、年齢、障害の有無などには関係なく、すべての人が対象です。

働くこととは、生活の糧を得ることは基本として、有償・無償にかかわらず、生きている実感を味わうことであり、社会の中で自分の居場所を見つけることでもあります。また、自らの目標を実現したいといった多様な価値観にも応えるものであり、国民の義務とされながらも、人間にとって大切な行動です。

民間企業では、労働者の生活環境やライフスタイルに合わせて、仕事量の増減を自由に行うことができます。転職についても、積極的にチャレンジできる環境が整備されていて、自分のやりたい仕事を選択することができます。また、求職の際は、身近なところに「就業コンシェルジュ」が配置されていて、暮らしに合わせた満足度の高い仕事を供給できるように配慮されています。このコンシェルジュは、就業のコーディネートだけでなく、様々な事情を抱え働きたくても働けない人のサポートも行っています。

人口減少、少子高齢化による労働力不足が懸念されていましたが、この課題は解消されています。民間企業では、定年の廃止や延長、外国人や障がいのある人の雇用を積極的に行っています。また、子育て世代に対して、育児休暇制度を充実させており、休暇後の職場復帰も積極的に推進しているため、子育てのために仕事を辞める方はおりません。短時間労働や在宅勤務が可能となり、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ、子育てや介護、趣味、地域貢献などに精を出す人が増えるとともに、ボランティア等の地域貢献活動が活発になり、NPO等の非営利組織も活性化し、魅力ある就労先の1つとなっています。

浜松の産業は、ICT（情報通信技術）の目覚ましい進化や民間企業のイノベーションにより、付加価値の高い生産品やサービスを市場に提供しています。このため、一人当たりの生産額は向上し、労働人口の減少を補っています。

めぐらす【巡らす】

エコ（ecological）＝エコ（economical）。

山、海、川、湖といった豊かな自然環境に恵まれた都市。その豊かさは、多種多様な生物を育んできました。これは浜松の貴重な財産であり、他都市には見られない“浜松らしさ”です。また、身近な自然を大切にする意識も高まり、きれいな水と空気の中で生活できるよう市民一人ひとりが心がけています。とりわけ、佐鳴湖の水質は格段に向上し、夏場には、子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

環境教育も進み、すべての市民の皆様が、「環境にやさしいことが一番経済的である」ことを知っています。自然環境を守ることは意識するものではなく、人が生きるため絶対的に必要なことと理解し、日々の生活の中で、自然環境と共存する方法を模索し続けています。また、クリーンエネルギーが普及する中で、温室効果ガス排出量が最小限に抑えられています。このため、温室効果ガスの国内排出量取引で、浜松が収益を得ています。

また、年間降水量が全国的に見ても多く、水資源も豊富です。市域の約70%が山林で、きれいで豊富な水を産み出す条件が揃っています。ただし、水は無尽蔵ではありません。山を守ることが水を守ることであり、人間も守られています。市民の皆様は、水の源である山や川を大切にし、水を無駄に浪費せず、汚れた水は適切に処理しています。適切な管理によって、豪雨などによる災害も少なくなりました。下水道の処理施設もコンパクト化されています。また、蛇口を捻れば、山からの安全でおいしい水が飲めるため、ペットボトルの水を買う人はいません。戦略物資と言われる石油の代替はありますが、水の代わりはありません。「水＞油」。水は浜松市民の誇りです。

ごみに関しては、3R（リサイクル・リユース・リデュース）の取り組みが盛んで、排出量は年々減少しています。このため、ごみ処理施設は徐々に廃止され、施設はコンパクト化されています。高度な技術力を活かして、電子機器から再利用できるレアメタルの回収も進み、浜松は都市鉱山の代表的存在になりました。

けちる【ケチる】

日当たり良好、未来に無駄なし。

浜松は、地の利を最大限に活用した「再生可能エネルギー」の普及に取り組んでいます。

日照時間は全国トップクラス。こうした特長を活かすため、太陽光発電の普及に力を入れています。個人住宅や集合住宅への設置は増加傾向にあり、売電を目的とした企業も、公共施設の屋上部や遊休地などを利用し、経営しています。また、ものづくり産業の高度な技術力によって、研究開発が継続的に行われ、太陽光発電のエネルギー効率は大幅に向上しています。

遠州のからっ風も活用しています。かつては体感温度を下げる悩ましい季節風でしたが、今では、風力発電設備から届く電気と暖房設備を通して、快適な空間を提供してくれます。

新エネルギーの開発は、浜松の地域経済に好影響を与えています。とりわけ、バイオマス発電の開発は、未利用木材の普及が進み、中山間地域の林業は活気を取り戻しています。また、生ごみを利用するバイオガス発電も稼働しています。市内で発生する生ごみを、ほぼ 100% 発電に消費していることから、ごみ処理施設のコンパクト化にも繋がりました。

こうした取り組みを推進することで、「再生可能エネルギー」による発電量は日本一になっています。

必要なエネルギーは自分で生成する。エネルギーの自給自足が基本です。こうした市民意識は高まり、個人宅だけでなく、民間企業や地域コミュニティにおいてもエネルギーを生成しています。また、余剰エネルギーは電力会社へ売電することで、無駄なく効率的に使用しています。さらに、光・熱・水・風・バイオマスなどは、明るさを引き出す照明や機械を動かす動力などとしても直接利用されています。

多様なエネルギー源を活用した「再生可能エネルギー」は身近なものになりましたが、エネルギー使用量が増えたわけではありません。むしろ、30年前と比較すると減少しています。それは、エネルギーに対する高度な教育が推進されるとともに、エネルギーを生成する技術だけではなく、省エネに対する技術も向上したからです。

浜松は、災害に強い多種多様な「再生可能エネルギー」が安定供給される都市です。浜松市民は、使用を抑えながら、必要な分だけ、効率良く利用しています。

みとめあう【認め合う】

多文化共生が世界で活躍する人材をつくる。

浜松は、主に南米出身のニューカマーと呼ばれる外国人市民が多く暮らしており、製造業などに勤務していました。そのニューカマー2世、3世たちが、今、浜松で活躍しています。小・中学校の教育だけでなく、高校・大学と高度な教育を受け、自らの希望に向かって、得意とする分野で成功につなげています。

小中学校では、外国人の子どもに対しても、多言語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣の習得機会の提供や母国語の言語支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。外国人の子どもたちは、当初、戸惑いを見せますが、日に日に文化や習慣の違いを理解し、日本人の子どもたちと一緒に学んで遊んでいます。一方、外国人のクラスメイトと共に学んだ浜松市民は、外国人との付き合いや海外での生活を障壁に感じることがないため、全世界で活躍しており、浜松から国際的な人材が多く輩出しています。こうした浜松出身者の活躍は、海外の都市から評価され、我が国のイメージ向上にも貢献しています。

地域コミュニティの場では、日本人市民と外国人市民が一緒になって、地域のお祭りや清掃ボランティアなどの自治会活動に参加しています。また、海外の文化を取り入れた新しいイベントや文化が生まれています。お互いの文化を教え合う教室なども共同運営されることにより、相互の習慣の違いを受け入れる優しさや、外国人市民が日本の文化や決まりを尊重する謙虚さが定着し、文化や言語の違いに起因するトラブルはありません。

また、ブラジル総領事館をはじめ、ビザの発行の相談ができる窓口など、国籍に対応した様々なサポートが充実しており、多くの外国人市民が、浜松での住みやすさを実感しています。浜松は、世界とボーダレス化している地域として、新たな浜松文化をつくり上げています。

つかう【使う】

私のオフィスは喫茶店、隣で息子が算数の授業。

ICT（情報通信技術）の向上は目覚しく、私たちの生活の細部にまで浸透しています。インターネット端末は、より身近なものになり、生活に欠かせないものになっています。

働き方が大きく変わりました。Web 会議などが主流になっており、月数回の出勤以外は、自宅で仕事をしている人が多くなりました。また、場所を選ばないことから、中山間地域の空き家をリノベーションしてオフィス兼住宅として生活するなど、住みたいところを選択するようになっていきます。勤務時間の概念がなくなり、自らの時間を持つことができるようになりました。

中山間地域では、豊かな自然や貴重な文化資源を世界に発信しているため、世界から日本の文化を知りたいと多くの観光客が訪れます。また、市域全体に公衆無線 LAN が整備され、通信無料で小型インターネット端末を快適に使うことができるため、来訪者には評判を得ています。さらには、観光情報を配信するアプリが開発され、海外の観光客にも分かりやすく案内しています。

児童・生徒はインターネット端末を所有しています。授業の様子をインターネット端末で復習することができるため、病気で休んだ場合には大変便利で、学習が遅れることはありません。さらに、緊急な連絡や位置情報などを配信し、防犯対策にも使われています。

浜松の抱える膨大なインフラには、センサー等により遠隔管理する技術をいち早く取り入れ、医療では電子カルテや遠隔診療の普及により、どこでも高度な医療を受けられます。また、市役所の手続きも電子化が進み、インターネットや TV 電話でほとんど対応できるようになりました。

これだけ ICT が普及してきた理由は、情報倫理の浸透と技術の向上により、悪質サイト、インターネットウィルス、個人情報流出などの様々な弊害が解決されつつあるからです。技術の向上に伴い、セキュリティが強化され、このような弊害は少なくなっているものの完全に解消されているわけではありません。このため、学校教育の中で、メディア教育が分野として確立され、情報を正しく評価・識別するメディアリテラシーを教えています。また、溢れる情報を必要な時に正しく使うため、メディアに依存しすぎないよう、アウトメディアに対する考え方も身につけるよう指導しています。進化を遂げる ICT に、対応できる人材が育っています。